核融合科学研究所「重水素実験安全評価委員会中間報告」に対するご意見についての
の研究所からの回答

<土岐市、Bさんからのご意見（ご質問）>

ご意見（ご質問）	研究所からの回答
重水素実験において電気の使用量はどのくらいか。	平成 18 年度の L H D 実験の電気使用量は 1,800 万 kWh（一般家庭の約 5,500 戸分）程度です。重水素実験ではプラズマ加熱等を増強する計画ですので、1 割程度増加すると考えています。
重水素実験の目的は何年後に達成するものと考えているのか。	L H D の目標とするプラズマパラメータ（温度、密度、閉じ込め時間、長時間放電）は、重水素実験期間の 9 年間で達成する計画です。

<多治見市、Cさんからのご意見（ご質問）>

ご意見（ご質問）	研究所からの回答
核融合科学研究所の説明会では、話し合いの時間が十分に設けられていない。	説明会では話し合いの時間を確保するように心掛けておりますが、不十分な場合には、いつでも説明する機会を設けますので、研究所にお申し込み下さい。

<多治見市、Eさんからのご意見（ご質問）>

ご意見（ご質問）	研究所からの回答
重水素実験は「重水素による高性能化を図る」ことを目的としていると言っているが、本当か？1992年の調査報告書では、ヘリカル型装置では重水素実験によって閉じ込めが改善されたデータはない。重水素とトリチウムの核融合反応によって発生する高速中性子に関するデータを得ることが目的ではないのか？	L H D における重水素実験はプラズマの高性能化のみを目的としています。最近の研究では、小型のヘリカル型装置でも重水素を用いると閉じ込め改善の兆しが見えてきています。小型のヘリカル型装置では、重水素による大幅な閉じ込め改善は難しいと考えられており、大型装置である L H D での研究成果が期待されています。高速中性子の発生データについては既に他の研究所での基礎実験で得られており、L H D の研究目的ではありません。
LHD と同規模の装置である JT-60 にはトリチウム除去装置は、設置されていません。	L H D では、JT-60 と同様に、トリチウム除去装置を設置しなくても法令基準を充たすことができます。しかし、トリチウムの影響を自然のレベル以下とするため、設置することにしました。

<多治見市、Fさんからのご意見（ご質問）>

ご意見（ご質問）	研究所からの回答
実現のめどの立たない核融合炉の実験研究に膨大な国費を投入すべきでない。	核融合発電は約 30 年後に実現すべく研究開発が進められており、世界が必要とする重要なエネルギー開発です。